

チャンスは

96年最後の交流戦。
初のメイン出場で
佐久間晋哉が、
大柴ひろしに
壮絶KO勝ち！



活かせ！

には小野寺力と日本キック協会のフェザー級タイトルを争い、最後はKO負けを喫したものの、善戦9月の季美野正和戦では、そのKO負けを忘れさせるほどの、試合巧者ぶりを見せて圧倒した。

一方の佐久間は、5Rに上がりたての選手。以前から目立つ存在ではあったが、経験から考えても、まだ一歩及ばないと思われた。

だが初めてのメインに抜擢され、リングに上がった佐久間からは、意外にも自信を帯びた余裕の表情が見られた。ただ9月には、元全日本バンタム級王者・東海太郎の復帰戦の相手を務め、判定で破っていたのかもしれない。

（メインが）決まったときはメチヤメチャうれしかったけど、日が近づくにつれ、緊張してきた」と本人は言っていたが、それでも硬くなるほどではなかったようだ。

大柴の方からも緊張は感じられない。1Rが終わる頃には、どっちが勝つか全く読めなくなっていた。2Rに入ると、サウスボーから繰り出す佐久間の右フック、カウ

●初のメイン、そして96年最後の試合をKOで飾った佐久間は大喜び。注目度も一気に上がった



①序盤、大柴は左に回りながら、ローキックをゴツゴツと当てていく。②佐久間は大柴の回りに対して、長いリーチでカウンターの取っていった。③プレッシャーをかけ、オールラウンドな技で攻撃する大柴だが、佐久間は捕らえることができない。④3Rが始まると、佐久間は猛攻に転じ、左ミドルキックを連打。⑤大柴をローフックにつめ、さらにパンチでたたきこむ佐久間。⑥左アッパーで、大柴がグラついたところに、佐久間は容赦なく左ミドルでとどめ、無防備だった大柴の顔は骨折！



●全日本キックvs日本キック協会交流戦 128分 契約3分5R (第12試合=メイン・イベント) (全日本フェザー級3位)
○佐久間晋哉 (八王子F.S.G. 5'6", 25歳) (3R0分36秒、KO) *元IFKキック
●大柴ひろし (法政経. 5'8"-00", 28歳) (日本フェザー級3位)



KICK BOXING 30th ANNIVERSARY 2nd. 12月22日●東京・後楽園ホール

ンターの左ストレートがよく当た

る。最終プレッシャーをかけ、ロキックを狙う大柴だが、佐久間の待ってましたと言わんばかりのパンチが、試合を傾けた。

勝機はここだと佐久間も感じたのか、3Rはいきなり倒しにきた。左ミドルの連打から、パンチで大柴を追い込む。そして強烈な左アッパーで、大柴がグラついたところに、左のミドルが食い込むように突き刺さった。

一度は立ち上がってみせた大柴だったが、レフェリーが試合をストップさせると、再びマットに崩れ落ち、右腕を押さえて苦しうにもがいた。後でわかったことだが、なんと前腕のヒジの下あたりが骨折してしまったようだ。

予想を上回る壮絶な幕切れ。同時に、荒いイメージのあった佐久間が急成長していたことも証明され、97年に向けての期待もふくらませた。たなほたともある大舞台で、佐久間は見事にチャンスをもにした。全日本キックは、春にフェザー級の王座決定トーナメントを行う計画だが、この分だと佐久間もその争いに加わる可能性が高い。

この日佐久間は、同じ階級である小野寺のことも意識していたそう。で、「大柴を小野寺より早い回で倒せた」と喜んでた。本人はまだまだと考えているようだが、いずれはそんな対戦も実現するだろうか。

(本島)

○1月31日に全日本バンタム級挑戦者決定戦を行う土屋ジョーと新聞実もそれぞれファンに挨拶。また土屋は2分間のミット振りも披露された



○セミ・ファイナルの前には、1月11日にデビット・カミングスと闘う小野寺力がリング上で紹介された



接近不可能!? 槍のようなカウンター!

